

新規事業採択時評価結果（平成17年度新規事業化箇所）

担当課：中国地方整備局地域道路課
 担当課長名： 田村 央

事業の概要

事業名	主要地方道 松江島根線	事業区分	地方道	事業主体	島根県
起終点	自：島根県松江市西川津町 至：島根県松江市西川津町			延長	0.90 km
<p>事業概要</p> <p>主要地方道松江島根線は、松江市上乃木の一般国道9号から、一般国道485号を一部重用し、松江市島根町中心部に至る延長約1.4 kmの幹線道路である。本事業区間は、松江市西川津町の市道との交差点から国道431号までの延長0.9 kmの道路改築事業である。</p>					
<p>事業の目的、必要性</p> <p>現在、一般国道485号の慢性的な渋滞のため、島根原子力発電所で原子力災害が発生した場合に、松江市島根町方面から松江南方面へ円滑な避難や救急活動ができない状況である。このため、平成15年度に事業化された一般国道485号松江第五大橋道路と一体となって整備を進めることにより、緊急避難路として防災上の果たす役割が大きく期待されており、早期整備が求められている。また、一般国道485号の渋滞の解消や、隠岐諸島への交通拠点である加賀港へのアクセス強化、島根県の主要工業団地である「ソフトビジネスパーク島根」へのアクセスが向上するため、観光や産業の振興においても大きく寄与するものと期待されている。</p>					
全体事業費	約20億円	計画交通量	7,270台/日		
<p>事業概要図</p>					

関係する地方公共団体等の意見
 松江・八束合併協議会の「新市まちづくり計画」（平成16年2月策定）において、新市の中心部と各地域の拠点を結ぶ放射道路の主要事業に位置づけられており、早期整備を求められている。

事業採択の前提条件
 費用対便益：便益が費用を上回っている

事業評価結果

費用対便益	B/C	4.1	総費用：19億円 （事業費：18億円 維持管理費：1億円）	総便益：75億円 （走行時間短縮便益：66億円 走行費用減少便益：1億円 交通事故減少便益：8億円）	基準年：平成16年
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=4.8（交通量 +10%）	B/C=3.3（交通量 -10%）	
		事業費変動	B/C=3.7（事業費 +10%）	B/C=4.5（事業費 -10%）	
	事業期間変動	B/C=3.9（事業期間 +20%）	B/C=4.3（事業期間 -20%）		
事業の影響	評価項目	評価	根拠		
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	-	主要渋滞ポイントの解消 一般国道485号松江第五大橋道路と一体となって整備することにより、松江市北部から南部へ向かうアクセスが向上し、県の主要渋滞ポイントの解消が図られる。 島根大学東側交差点 渋滞長 1,000m 700m	
		事故対策	-		
	社会全体への影響	歩行空間	-	近隣に松江東高校、松江市立第二中学校、川津小学校があり、本区間を整備することにより新たな通学路となるため、歩道を設置。 通学生歩道利用者数 240人/12h	
		住民生活	-	島根町から山陰自動車道松江玉造ICまでのアクセスが向上する。 島根町役場～山陰自動車道松江玉造ICへの所要時間 39分 36分	
		地域経済	-	島根町から新松江市立病院までのアクセスが向上する。 島根町役場～新松江市立病院への所要時間 39分 36分	
		災害	-	当路線は、島根原子力発電所の原発特措法に基づく振興計画に位置付けられており、原子力災害時の円滑な避難又は緊急輸送を確保するために重要な役割を担っている。 松江市北部、島根町の住民約2万5千人の避難路を確保。	
環境		-	自動車からのCO2排出量の削減 CO2排出削減量：88t/年		
地域社会	-	県の主要工業団地である「ソフトビジネスパーク島根」へのアクセスが向上する。 山陰自動車道松江玉造IC～「ソフトビジネスパーク島根」への所要時間 28分 25分			
事業実施環境	-	地元より早期整備を求められている。			

採択の理由

本事業は、便益が費用を上回っているとともに、自動車・歩行者、社会全体への影響も大きい。また、地元早期整備要望があり事業実施の環境は整っている。
 特に、松江市内の主要渋滞ポイントの解消、原子力発電所災害時における緊急避難・輸送路の確保に大きな効果が見込まれる。

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。